

推薦者の責任 2021.8.10

研究助成金や賞の応募書類には推薦人が必要なものがあります。そして、推薦人自身が応募者自身の学歴や業績を書く場合と、応募者が書いた申請書類に、推薦人の所属、職名、氏名を記入すればよい場合とがあります。前者の場合は高額の研究費や有名な賞の申請などのときで、比較的少ないのですが、推薦人の責任は重いものです。一方、後者の場合が圧倒的に多いのですが、推薦人の責任となると問題です。

私は医学部長や学長として、多くの場合は後者でした。推薦人の責任として、応募者の申請書類を読み、誤りや分かり難いところを指摘して、書き直してもらうこともしばしばありました。研究助成の申請書のような場合でも、若い研究者に科学的で良い文書を書かせるよい機会だと考えたからです。

しかし、締め切りぎりぎりに応募書類を持参し、推薦を頼まれる場合もありました。そのような時は、申請者に「事務で公印を押してもらってくれ」と言っていました。申請書を読んで訂正する時間などありません。また、申請者は私が読んでも分かる筈がないと考えているのかも知れません。しかし、この場合は、自分は無責任な推薦人ではないかと心配もしました。

その後、私はある財団の助成選考委員になり、多くの応募書類を読まなければならない立場になりました。その応募書類の最後には推薦人の項があるのですが、推薦人自身か事務がただ自動的に記入しているのか、応募者自身が推薦人の職名、氏名などを記入し、形式的に印鑑を押してもらっているのか、いずれにしても推薦人の責任を感じさせる応募書類にほとんど出会いませんでした。推薦人は超多忙なののでしょうか。

先日、助成申請書の推薦人の署名に、「主人教授、〇〇」とあり、この珍語に笑ってしまいました。

いま、多くの企業の不正や誤魔化しが報告されていますが、これは企業の利益優先、倫理観欠如のせいではないかと思えます。現場のトップの責任が問われません。大学でも無責任体質があるのではないかと心配です。

推薦人はただの飾り？責任があるのではないのでしょうか。